

日時	平成16年9月30日(木)
場所	2・3年教室
児童	2年生 男5名 女4名 計9名 3年生 男3名 女4名 計7名
指導者	三浦諭子(T1) 佐藤 恵(T2)

## 1 単元名 かけ算(1)

## 2 単元について

## (1) 教材について

学習指導要領に掲げられた算数科の目標は、「数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。」となっている。これを受けて第2学年の「数と計算」領域の目標は「具体物を用いた活動などを通して数についての感覚を豊かにする。数の意味や表し方についての理解を深めるとともに、加法や減法についての理解を深め、用いることができるようにする。また、乗法の意味を理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」となっている。

1学年では、「10を6個集めた数は60である」といったように数の理解と関連づけて、ひとまとまりの数とまとまりの数からものの総数を求めるなどの具体的な活動を通して、乗法の素地的な経験をしてきている。

ここでは、これらの経験をもとにして具体的な量  $a$  をもとにして  $a$  の  $n$  個分が  $m$  であることをとらえ、これを  $a \times n = m$  と表現する活動へ導き、5の段の九九、2の段の九九、3の段の九九、4の段の九九を導入し、その記憶と適用をはかるようにする。その際には、乗法の意味の理解に重点を置いて指導を進めるようにする。

## (2) 児童について

1学年のCRTの達成率は9人中8人が80%を超えているが、1人だけ59%となっていて個別指導が必要になっている。複式形態に少しずつなれてきているが、自分で考えをまとめたり、計算を進めたりできない児童があり、T2が指導に入りながら学習を進めている。アンケートの結果では、算数が好きと答えている児童が5月より増え、意欲が少しずつ高まっている。

本単元のレディネステスト(8月下旬実施)では5を単位として、いくつ分あるかを求める問題では7人が正解し、また10とび、5とび、2とびの系列を求める問

## 1 単元名 かけ算のひっ算(1)

## 2 単元について

## (1) 教材について

学習指導要領に掲げられた算数科の目標は、「数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活に生かそうとする態度を育てる。」となっている。これを受けて第3学年の「数と計算」領域の目標は「加法及び減法を適切に用いることができるようにするとともに、乗法についての理解を深め、適切に用いることができるようにする。また、除法の意味について理解し、その計算の仕方を考え、用いることができるようにする。」となっている。

乗法九九については2学年で学習しているが、本学年ではその後を受けて、第1単元で、乗法九九について理解をまとめたり、乗法の交換法則や、乗数が1ずつ増減するときの乗数と積の変化の関係について学習したりしてきている。

この単元では、被乗数が何十、何百の乗法を1位数どうしの乗法に帰着させる計算のしかたを理解し、その計算ができるようにする。またこれらのことをもとにして、2位数、3位数に1位数をかける計算を導入し、乗法の筆算形式とともに、その計算の原理や手順について理解を図ることを主体としている。

## (2) 児童について

2学年のCRTの達成率は7人中4人が100%で2人も88%、94%と大変高い数値になっている。しかし1人だけ55%となっており、学年の中で1人差がある状態となるため個別指導が必要となっている。アンケート結果では、算数を好きだと感じている児童が多いが、問題数が多くなっていることや問題の複雑さに苦手意識が出てきている児童もある。

本単元のレディネステスト(8月下旬実施)では、1位数 $\times$ 0、0 $\times$ 1位数、1位数 $\times$ 10、10 $\times$ 1位数の計算、交換法則については全員できていた。また乗数と

題でも7人が正解で、どちらも全員が理解できていないところを補充指導した。

事前テスト(8月下旬実施)では、かけ算の意味が分かり立式して答えを求めることができた児童が2人で、かけ算九九も全て正解だった。またかけ算の意味は分かっていないが九九が全問できていた児童が2名、全問不正解の児童は、3名だけで、かけ算九九に学習前から興味をもっていたり、覚えたりしている児童がいることが分かる。

### (3) 指導について

第1小单元では、遊園地の絵をもとに、それぞれの乗り物に乗っている子供の人数を調べる活動を通して、まずは1つ分の大きさが異なる場合と、すべて同じ場合があることに着目させる。次に全体の数量の関係にふれる。このように場面に即して数量の関係を表現する活動を通して、同じ大きさの数量を「1つ分の大きさ」とし、それが「いくつ分」であるかで、「全体の数量」を表すことを理解できるようにする。

第2小单元では、第1小单元で学習した乗法の意味や積の求め方の理解についての反復的な指導を行いその理解をいっそう深めながら、5の段の九九を構成することに重点を置く。その際、乗法の意味や九九の有用性の理解を中心とする。

第3小单元では、3の段と4の段の九九の構成から先は、段階を追って、児童自らが乗法九九を工夫して構成していくことができるような学習過程をくむようにする。既習事項を生かし、~のいくつ分ととらえたら累加の考え方で答えを出し、その後乗数が1増えると、積は被乗数の数だけ増えることを具体的な操作と結びつけて理解させるようにしたい。

## 3 教材の関連と発展

積の変化の規則性については、6人が正解であったが1名はまったく理解できていなかったのも個別指導した。また乗法の意味について補充指導した。

事前テスト(8月下旬実施)では、何十×1位数の計算ができた児童が4名、何百×1位数の計算ができた児童が2名いた。また全ての筆算ができた児童が1名、3位数×1位数の繰り上がりのある計算だけ間違っていた児童が1名いた。

### (3) 指導について

第1小单元では、何十、何百×1位数の計算についての理解を図る。その際、何十、何百×1位数の計算も、既習の乗法九九を使えば簡単に答えが求められることに気づかせ、瞬時にできるようにしていく。

第2小单元では、2位数×1位数の計算のしかたを考え、そこから筆算形式の指導に結びつけたい。計算のしかたを考える指導では、まず児童自身の力で方法を導き出せるようにする。そのためには、既習であればどんな方法でもよいという中で自力解決させたい。それぞれの考え方をお互いに理解し認め合う場を持った後に、分配法則を使う方法の良さに気づかせるという学習過程をとっていく。その後、被乗数を十の位と一の位に分けて計算する方法をもとに筆算形式を指導していきたい。

第3小单元では、3位数×1位数については、2位数×1位数の発展として、既習の筆算のしかたから類推的に導くようにする。桁数が1つ増えただけで、原理・手順は2位数×1位数と全く同じであることを理解させたい。

## 3 教材の関連と発展

#### 4 単元の見目

乗法の意味について理解し、それを用いることができる。

##### [ 関心・意欲・態度 ]

- ・ 乗法に関心をち、ものの個数をとらえるときに進んで乗法を用いようとする。

##### [ 数学的な考え方 ]

- ・ 乗法九九が用いられる場合について、「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえて全体の個数の求め方について考える。

##### 「表現・処理」

- ・ 乗法が用いられる場合を具体物や式で表すことができる。
- ・ 乗法九九(5、2、3、4の段)を構成し、確実に唱えることができる。

##### 「知識・理解」

- ・ 乗法が用いられる場合を理解する。
- ・ 乗法九九(5、2、3、4の段)の構成のしかたを理解する。

#### 4 単元の見目

筆算形式による2、3位数に1位数をかける乗法計算のしかたについて理解し、それを用いる能力をのばす。

##### [ 関心・意欲・態度 ]

- ・ 筆算形式による2、3位数×1位数の計算のしかたを、既習の乗法計算のしかたをもとに考えようとする。

##### 「数学的な考え方」

- ・ 筆算形式による2、3位数×1位数の計算のしかたを、数の構成や十進位取り記数法をもとに考える。

##### 「表現・処理」

- ・ 2、3位数×1位数の計算を筆算で正確にできる。
- ・ 乗法の結合法則を計算に用いることができる。

##### 「知識・理解」

- ・ 2、3位数×1位数の筆算のしかたを理解する。
- ・ 乗法の結合法則を理解する。

5 指導計画（22時間）

かけ算（5時間）

時間	目標	おもな評価規準	評価の場面や方法 ( ) A評価 ( ) B評価	( ) 努力が必要な児童への手だて( ) 進んでいる児童への手だて
1 2	・「1つ分の大きさ」「いくつ分」をとらえられるようになる。	・数量の関係を「単位とする大きさ」「いくつ分」ととらえることができる。(表)	絵や図の中から自分で「1つ分の大きさ」を柔軟に求めることができ、それをもとに「いくつ分」かを判断して全体の個数の求め方について考えることができる。 具体物や半具体物を操作しながら全体の個数の求め方について考えることができる。	半具体物操作の後に図をかきながら「1つ分」「いくつ分」をとらえられるように一緒に作業を行う。 「何のいくつ分」といえるようノートに書かせる。
3 4	・乗法の意味を理解する。	・乗法の場면을式に表したり、式を読んだりすることができる。(表) ・数量の関係を「単位とする大きさ」「いくつ分」ととらえ、それを簡潔に表したものが乗法の式であることを理解している。(知)	ことば、図、式などを用いて多様に表現する。 「×」の記号を使って式に表すことができる。 数量の関係を「単位とする大きさ」「いくつ分」ととらえ、すぐに立式できる。 乗法の関係を式に表すことができる。	ことばの式の数字に線を引かせると、式の書き方を個別指導する。 式から問題や図などを考えさせる。

5 指導計画（22時間）

何十、何百のかけ算（2時間）

時間	目標	おもな評価規準	評価の場面や方法 ( ) A評価 ( ) B評価	( ) 努力が必要な児童への手だて( ) 進んでいる児童への手だて
1 2	・何十、何百に1位数をかける乗法計算のしかたを理解し、その計算ができる。	・何十、何百×1位数の計算を、1位数×1位数の計算をもとにして考えている。(考)	何十、何百×1位数の計算を、1位数×1位数の計算をもとにして自力で考えている。 何十、何百×1位数の計算を1位数×1位数の計算をもとにして考えている。	図をもとに1位数×1位数の計算に帰着して考えさせる。 複数の考え方でどれが一番分かりやすいか考えさせる。
2けたの数に1けたの数をかける計算（6時間）				
1 2	・2位数×1位数(部分積がみな1けた)の筆算形式のしかたを理解し、その計算ができる。	・2位数×1位数の筆算のしかたを既習の乗法九九などをもとに考えている。(考)	2位数×1位数の筆算のしかたを既習の乗法九九に帰着して自力で考えている。 2位数×1位数の筆算のしかたを既習の乗法九九に帰着して考えている。	累加の方法でまず答えを確かめさせ、ほかの考え方や図と対比しながら筆算に結びつける。 筆算の仕方をことばでまとめさせ、唱えさせる。

5	・乗法の答えは被乗数を乗数の数だけ累加して求められることを理解する。	・乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法で求めることができる。(表)	乗法の答えを被乗数を乗数の数だけ累加する方法を自分で考えればやく計算する。 図や半具体物を使って累加の方法に気づき、計算することができる。	図や半具体物を数えながら、早く計算できる方法を考えさせる。 類似問題を解かせ、累加のほかに方法がないかを考えさせる。
---	------------------------------------	---------------------------------------	--	---

5の段、2の段の九九(6時間)

1	・5の段の九九を構成する。	・5の段の九九の構成のしかたを理解している。(知)	5の段の九九の構成のしかたを確実に理解している。 5の段の九九の構成のしかたを理解している。	図を使いながら累加の方法に気づかせる。 複数の方法の中で、どの方法がいいか考える。
2 3	・5の段の九九を記憶し、適用する。	・5の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。(表)	5の段の九九をアトランダムに出題しても早く正確に答えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。 5の段の九九を順序良く正確に唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	5の段の構成の表などを使い繰り返し唱えさせる。問題を解決する時には、図を使いながら「1つ分」などをとらえさせるようにする。 様々な文章題に挑戦させ、乗法の意味も確実にする。

3	・2位数×1位数(一の位の数との部分積が2けた)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	・2位数×1位数(一の位の数との部分積が2けた)の筆算ができる。(表)	2位数×1位数(一の位の数との部分積が2けた)の筆算が正確に速くできる。 2位数×1位数(一の位の数との部分積が2けた)の筆算ができる。	部分積の省略のない筆算に立ち戻らせ、その合わせた形が筆算になっていることに気づかせる。 筆算のしかたをことばでまとめさせる。
4	・2位数×1位数(十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	・2位数×1位数(十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算ができる。(表)	2位数×1位数(十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算が速く正確にできる。 2位数×1位数の筆算ができる。	位の意識をもたせたり、繰り上がった数を必ず書くようにしたりして考えさせる。 多くの類題をとかせる。
5 6	・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・2位数×1位数の筆算の理解を確実にする。	・2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算ができる。(表)	2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算が正確に速くできる。 2位数×1位数(部分積を加えたときに百の位に繰り上がりあり)の筆算ができる。	十の位の繰り上がりの部分を補助計算させたり、繰り上がった数を必ず書くようにしたりして考えさせる。 多くの類題をとかせる。

3けたの数に1けたの数をかける計算(4時間)

4 本時	・2の段の九九を構成する。	・5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の構成を考えている。(考)	多様な方法で2の段の構成のしかたを考えるとともに、筋道立てた説明を考慮することができる。	5の段での学習の様子が分かるカードなどを用意して、既習の考えを思い出せるよう個別
---------	---------------	----------------------------------	--	--

1 本時	・3位数×1位数(部分積がみな1けた)の筆算のしかたを理解し、その計算が	・3位数×1位数の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算をもとに考えている。(考)	3位数×1位数の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算をもとに自力で考えている。 3位数×1位数の筆算の	2位数×1位数の筆算での考え方を思い出せるようなカードを用意したり、位に分けて考えられるよう位
---------	--------------------------------------	--	--	---

			問題提示に対して、既習の考え方を活用して、2の段の構成のしかたを考えることができる。	指導する。複数の方法の中でどの方法がよいかを考えさせる。		できる。		仕方を2位数×1位数の筆算をもとに考えている。	の表を用意したりする。筋道立てて説明できるようにする。	
5 6	・2の段の九九を記憶し、適用する。	・2の段の九九を唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。(表)	2の段の九九をアトラダムに出題しても早く正確に答えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。 2の段の九九を順序良く正確に唱えることができ、それを用いて身の回りの問題を解決することができる。	2の段の構成の表などを使い繰り返し唱えさせる。問題を解決する時には、図を使いながら「1つ分」などをとらえさせるようにする。 様々な文章題に挑戦させ、乗法の意味も確実にする。		2	・3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。	・3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算ができる。(表)	3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算が正確に速くできる。 3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算ができる。	部分積の省略のない筆算にしたり、繰り上がった数を必ず書くようにしたりして考えさせる。 筆算のしかたを説明できるようにする。
						3	・3位数×1位数(部分積がみな2けた及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・3位数×1位数の筆算の理解を確実にする。	・3位数×1位数(部分積がみな2けた及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算ができる。(表)	3位数×1位数(部分積がみな2けた及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算が性格に速くできる。 3位数×1位数(部分積がみな2けた及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)の筆算ができる。	部分積の省略のない筆算にした、繰り上がった数を必ず書くようにしたりして考えさせる。 筆算のしかたを説明できるようにする。
3のだん、4のだんの九九(7時間)										
1	・3の段の九九を構成する。	・乗法について成り立つ性質を用いて、九九の構成のしかたについて考えている。(考)	累加や乗数と積との関係など、乗法について3の段の構成のしかたを考えると、筋道立	既習事項を使って、前の答えに何をたせば答えが出たかを思い出させるように個別指導する。		4	・乗法の結合法則について理解するとともに3つの数の乗法が1つの式に表せることを理解する。	・乗法2段階の式を1つの式に表すことができる。(表)	乗法2段階の式を1つの式に正確に速く表すことができる。 乗法2段階の式を1つの式に表すことができる。	文章題から3つ数字を読み取るよう個別指導をする。 筋道を立てて説明させる。

			<p>てた説明を考 えることができ る。 累加や乗数 と積との関係 など、乗法につ いての性質を 用いて3の段 の構成のし方 について考え ることができる。</p>	<p>なぜその ような答え になったか を筋道立て て説明させ る。</p>
2 3	<p>・3の段の 九九を記憶 し、適用す る。</p>	<p>・3の段の九 九を唱える ことができ、 それをを用い て身の回りの 問題を解決 することができる。 (表)</p>	<p>3の段の九 九をアトラ ンダムに出題 しても早く正 確に答えるこ とができ、それ を用いて身の 回りの問題を 解決することが できる。 3の段の九 九を順序良く 正確に唱える ことができ、そ れを用いて身 の回りの問題 を解決すること ができる。</p>	<p>3の段の 構成の表な どを使い繰 り返し唱え させる。問題 を解決する 時には、図を 使いながら 「1つ分」な どをとらえ させるよう にする。 様々な文 章題に挑戦 させ、乗法の 意味も確実 にする。</p>
4	<p>・4の段の 九九を構成 する。</p>	<p>・乗法につ いて成り立つ 性質を用い て、九九の構 成のしかた について考 えている。 (考)</p>	<p>累加や乗数 と積との関係 など、乗法につ いての性質を 用いて4の段 の構成のしか たを考えるこ とができると ともに、筋道 立てた説明を 考えることが できる。 累加や乗数 と積との関係 など、乗法につ いての性質を 用いて4の段 の構成のし方 について考え ることができる。</p>	<p>既習事項 を使って、前 の答えに何 をたせば答 えが出たか を思い出さ せるように 個別指導す る。 なぜその ような答え になったか を筋道立て て説明させ る。</p>

まとめ(2時間)

1 2	<p>・学習内容 に習熟す る ・学習内容 の理解を 確認する。 ・学習内容 の理解を 深め、算数 への興味 を広げる。</p>	<p>・2、3位数 ×1位数の 計算ができ る。(関) ・既習事項を 活用し、活動 に取り組も うとしている。 (表)</p>	<p>既習事項を活 用し、活動に進 んで取り組もう としている。 既習事項を活 用し、活動に取り 組もうとしてい る。</p>	<p>筆算の手順 を一緒に言い ながら進め、 徐々に一人で 解決できるよ うにしてい く。 答えの見当 をつけなが ら、チャレ ンジ問題に挑戦 させるように する。</p>
--------	--	---	---	--

数の表し方(5時間)

1	<p>・一万まで の数の読 み方、書き 方、構成を 理解する。</p>	<p>・束ごとに数 えるよさに 気づき、数え ようとして いる。(関) ・十万未満の 数の読み方 や書き方、数 の構成を理 解している。 (知)</p>	<p>束ごとに数え るよさに気づき、 その仕組みを用 いて進んで数を 数えようとして いる。 束ごとに数え るよさに気づき、 数えようとして いる。 十万未満の数の 読み方や書き 方、数の構成を正 確に理解してい る。 十万未満の数の 読み方や書き 方、数の構成を理 解している。</p>	<p>既習の千ま での数のしく みから、ある 数が10個集 まると新しい 位が必要にな ったことを思 い出させる。 1000が 10個で一万 と読むことを 思い出させ る。 位の表など を使い、束ご とにまとめた 図を書かせ、 説明させるよ うにする。</p>
---	---	--	--	--

5 6	・4の段の九九を記憶し、適用する。	・4の段の九九を唱えることができ、それをを用いて身の回りの問題を解決することができる。(表)	4の段の九九をアトランダムに出題しても早く正確に答えることができ、それをを用いて身の回りの問題を解決することができる。 4の段の九九を順序良く正確に唱えることができ、それをを用いて身の回りの問題を解決することができる。	4の段の構成の表などを使い繰り返し唱えさせる。問題を解決する時には、図を使いながら「1つ分」などをとらえさせるようにする。 様々な文章題に挑戦させ、乗法の意味も確実にする。	2 3	・十万、百万、千万の数のしくみと千万の位までの読み方、書き方、構成を理解する。	・既習の10000までの数のしくみから類推して、一万～千万の数のしくみも10個分の関係になっていることをとらえている。(考) ・千万の位までの数を読んだり書いたりできる。(表)	既習の10000までの数のしくみから類推して、一万～千万の数のしくみも10個分の関係になっていることをとらえている。 既習の10000までの数のしくみから類推して、一万～千万の数のしくみも10個分の関係になっていることをとらえている。 千万の位までの数を正確に速く読んだり書いたりできる。 千万の位までの数を読んだり書いたりできる。	常に位取りの表を身近に置き、その下に数字を書き込ませたりしながら個別指導する。 自分で位取り表を書かせたり、多くの問題を解かせたりする。
--------	-------------------	--	--	---	--------	---	---	---	---

まとめ(2時間)

1 2	・学習内容の理解を確認する。 ・学習内容の理解を深め、算数への興味を広げる。	・被乗数が5, 2, 3, 4の乗法の計算ができる。(表)	被乗数が5, 2, 3, 4の乗法の計算が速く正確にできる。 被乗数が5, 2, 3, 4の乗法の計算ができる。	かけ算九九表を使いながら確実に練習させるようにする。 九九の表から分かる事を見つけたり、さらに様々な問題に取り組みせたりする。	4	・一億未満の数の数について、理解を深める。	・一億未満の数をさがそうとしている。(関)	十進位取りの記数法の有用さに気づき、一億未満の数を進んでさがそうとしている。 一億未満の数を進んでさがそうとしている。	図書館の本やハウセンカの種など身近な材料をもとにした活動を組み、興味をもたせるようにする。 その数字がどんな意味をもっているのかといった内容まで興味をもてるよう働きかける。
5	・数の相対的な大きさについて理解する。 ・数の系列、順序、大小についての理解を深める。				5	・数の相対的な大きさについて理解する。 ・数の系列、順序、大小についての理解を深める。	・数を相対的な大きさでとらえている。(考) ・数直線上に表された整数を読んだり、数直線上に整数を表したりできる。(表)	数を相対的な大きさで正確にとらえている。 数を相対的な大きさでとらえている。 正確に数直線上の整数を読むことができる。 数直線上の整数を読むことができる。	模擬貨幣などを用いて単位を変える必要感を持たせ、1目盛りがいくらを表している確認させながら個別指導をする。 問題作りをさせる。



九九ビンゴ(3時間)				
1 2 3	・ゲームを通して、かけ算九九に主体的に取り組めるようにするとともに、その習熟を図る。	・5、2、3、4の段の九九を使いゲームに取り組もうとしている。(関)	意欲的にゲームに取り組み、かけ算九九をより速く正確なものにしようとして努力している。 ゲームに取り組もうとしている。	かけ算九九表を使いながら確実に練習させるようにする。 リズムに乗った九九の唱え方の練習に取り組ませ、順に唱えるだけでなく、逆に唱えることができるようにさせる。

10倍した数と10でわった数(2時間)				
1	・整数を10倍した数の表し方を理解する。	・10倍した数はもとの数に0を1個つけた数になることを理解している。(知)	10倍した数はもとの数に0を1個つけた数になること正確に理解している。 10倍した数はもとの数に0を1個つけた数になることを理解している。	模擬貨幣を使いながら具体的に数を数えさせ理解させる。 10倍した数のしくみを図などに表しながら説明させる。
2	・整数を100倍した数、10でわった数の表し方を理解する。	・100倍した数はもとの数に0を2個つけた数になること、10でわった数はもとの数の一の位の0をとった数になることを理解している。(知)	100倍した数はもとの数に0を2個つけた数になること、10でわった数はもとの数の一の位の0をとった数になることを正確に理解している。 100倍した数はもとの数に0を2個つけた数になること、10でわった数はもとの数の一の位の0をとった数になることを理解している。	模擬貨幣を使いながら具体的に数を数えさせ理解させる。 100倍した数や10でわった数のしくみを図などに表しながら説明させる。
まとめ				
1	・学習内容の理解を図る。	・一万、十万の位を読んだり、数直線上に表された整数を読んだりすることができる。(表)	一万、十万の位を読んだり、数直線上に表された整数を正確に読んだりすることができる。 一万、十万の位を読んだり、数直線上に表された整数を読んだりすることができる。	位取り表を使いながら解決させる。 様々な問題に取り組みませる。

6 本時の学習

(1) 本時の評価規準

- 5の段の九九と同じ考えを用いて、2の段の九九の構成を考えている。(数学的な考え方)

(2) 本時の構成

本時は、5の段の九九の構成の仕方を生かして、2の段の九九の構成を考えていく。「つかむ」段階では共通導入とし、問題から「1つ分」×「いくつ分」とらえ、かけ算の問題であることを理解させる。両学年がかけ算の同じ題材に取り組むことで3年生の問題にも興味をもたせたい。また見通しをもつところでは5の段のときと同じ方法でできないかを考えさせたい。「しらべる」段階では、個人カードにより考えが思いつかないと思われる児童には、5の段の九九で使った累加のカードを用意し、2の段の九九でも同じように考えていいことに気づかせ、累加の方法で確実に答えを出させ、自力解決に向かわせたい。

(3) 展開

6 本時の学習

(1) 本時の評価規準

- 3位数×1位数(部分積がみな1けた)の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算をもとに考えている。(数学的な考え方)

(2) 本時の構成

本時は、3位数×1位数の式が登場する初めての場面である。共通導入とし、問題から「1つ分」×「いくつ分」とらえ、かけ算の問題であることを理解させる。また両学年がかけ算の同じ題材に取り組むことで2年生の問題にも興味をもたせたい。見通しをもつところでは、2位数×1位数での解決方法を思い出させ、同じように解決できないか考えさせたい。「しらべる」段階では、2位数×1位数の筆算をもとに3位数×1位数の筆算を考えさせたい。形式的には筆算はできると思われるが、個人カードにより筆算の手順を説明できないと思われる児童には、被乗数を分けたことを思い出すよう助言しながら自力解決に向かわせたい。

(3) 展開

指導上の留意点・評価	学 習 活 動	展 開	形 態	形 態	展 開	学 習 活 動	指導上の留意点・評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>分かっていることや聞いていることを発表させる。</li> <li>1つ分の大きさは何か、それがいくつあるかを発表させ、ことばの式で確かめる。</li> <li>1つ分が2人であることから2の段の九九の構成を考えればいいことに気づかせる。</li> <li>かけ算の式のほかに求める式(累加の式など)を書かせるようにする。</li> <li>机を移動したら、5の段の九九でどのように考えたのかを確認してから自力解決に入る。(T2)</li> </ul>	<p>1 問題を読み、題意をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1台に2人ずつのっているゴーカートが5台あります。 ゴーカートにのっている人は、みんなで何人ですか。</p> </div> <p>2 立式する。</p> <p>3 課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>2のだんの九九の答えのもとめかたを考えよう。</p> </div> <p>4 解決の方法の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>5の段の九九と同じ考えで2×5まで計算する。</li> </ul>	つかむ			つかむ	<p>1 問題を読み、題意をとらえる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>1回のねだんが 413円のゴーカートに2回のりました。 だいたいはいくらですか。</p> </div> <p>2 立式する。</p> <p>3 課題を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>413×2の計算のしかたを考えよう。</p> </div> <p>4 答えや解決の方法の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>答えの見積もりをする。</li> <li>400×2=800だから800より多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かっていることや聞いていることを発表させる。</li> <li>1つ分の大きさは何か、それがいくつあるかを発表させ、ことばの式で確かめる。</li> <li>ことばの式で確かめながら3位数でもかけ算が使えることを押さえる。</li> <li>今までの計算との違いに気づかせ、課題をつかませる。</li> </ul>
		7					

<p><b>考</b> 5の段の九九と同じ考えを用いて2の段の九九の構成を考えている。</p> <p><b>手だて</b> 5の段の九九で行った累加のカードを用意し、同じように解けばいいことを助言する。</p> <p>・全員ができたところで問題の答えの確認し、その後は直接指導の中で解決していく。</p> <p>・乗数が大きくなっていくので、累加以外の計算ができないか考えさせる。</p>	<p>5 自力解決する。</p> <p><math>2 \times 5</math>の答えを出す。</p> <p>・<math>2 + 2 + 2 + 2 + 2 = 10</math>と計算した。</p> <p>・2, 4, 6, 8, 10と2つびに考えた。</p> <p>問題の式と答えを確認する。</p> <p>ゴークートがさらに増えていくときの人数を求める。</p>	し ら べ る	10	<p>既習事項をもとに解決の方法を考える。</p> <p>・筆算でやってみる。</p> <p>・413を400と13に分ける。</p> <p>・413を400と10と3に分ける。</p>	<p>・解決方法を思い出せるように学習コーナーに掲示しておく。</p>		
				10	<p>5 自力解決する。</p> <p>・筆算で</p> <p>・413を400と13に分けて</p> <p><math>400 \times 2 = 800</math></p> <p><math>13 \times 2 = 26</math></p> <p><math>800 + 26 = 826</math></p> <p>・413を400と10と3に分けて</p> <p><math>400 \times 2 = 800</math></p> <p><math>10 \times 2 = 20</math></p> <p><math>3 \times 2 = 6</math></p> <p><math>400 + 20 + 6 = 426</math></p>	し ら べ る	<p>・筆算についてはなぜそのような手順でできるのか説明できるようにさせる。</p> <p>・手のつかない児童には2位数の計算の時、各位で被乗数を分けたことを思い出すよう助言する。</p>
	<p>6 計算のしかたをまとめる。</p> <p>・9台分の人数の求め方を発表する。</p>	た し か め る 5			<p><b>考</b> 3位数×1位数の筆算の仕方を2位数×1位数の筆算をもとに考えている。</p> <p><b>手だて</b> 位ごとに分けやすくするため位の表を用意し被乗数を分けるように助言する。</p>		
<p>・2の段の九九の構成を考えながら文章問題をとかせるようにする。</p> <p>・速く終わった児童には3年生の筆算の問題をチャレンジ問題としてとかせる。</p>	<p>7 2の段の九九の構成のしかたをまとめる。</p> <p><b>2のだんの九九の答えはひとつまえの答えに2ずつたしていく。</b></p> <p>8 練習問題をやる。</p>	ま と め る	15		<p>・自分の考えができたなら、発表の準備をさせる。(ホワイトボード)</p>		
			10	<p>6 計算のしかたをまとめる。</p> <p>自分の考えを発表させる。</p> <p>それぞれの方法について話し合う。</p>	た し か め る	<p>・友達のことを聞いて気づいたことを発表させる。</p> <p>・位ごとに分けて計算すれば2位数×1位数と同じように九九で答えが求められることを示していく。</p>	

<p>・乗法九九がこれからの計算の基礎になっていることを押さえる。</p>	<p>9 振り返りカードを書き感想を交流する。</p>	<p>23</p>	<p>ま と め る</p>	<p>7 筆算のしかたをまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> <math display="block">\begin{array}{r} 413 \\ \times 2 \\ \hline 826 \end{array}</math> </div> <p>8 練習問題をする。</p> <p>9 振り返りカードを書き、感想を交流する。</p>	<p>・3位数の計算でも2位数×1位数や乗法九九が基本となっていることを押さえる。</p>
---------------------------------------	-----------------------------	-----------	----------------------------	--	---

7 板書計画  
3年(正面)

1回のねだんが413円のゴーカートに2回のみました。  
だいい金はいくらですか。

1回のねだん×のった回数=だいい金

式  $413 \times 2$   
見通し

- ・413を340とすると  
 $400 \times 2 = 800$   
800より多い
- ・413を400と13に分ける
- ・413を400と10と3に分ける
- ・筆算でやってみる

$413 \times 2$ の計算のしかたを考えよう。

まとめ  
ひっ算のしかた

$$\begin{array}{r} 413 \\ \times 2 \\ \hline 826 \end{array}$$

2けたのかけ算と同じようにできそう

児童の考え

2年(側面)

1台に2人ずつのっているゴーカートが5台あります。  
ゴーカートにのっている人はみんなで何人ですか。

しき  $2 \times 5 = 10$   
答え 10人

見とおし

- ・2ずつたしていく
- ・2, 4, 6, 8, と考える。

2のだんの九九の答えのもともめかたを考えよう。

まとめ  
2のだんの九九の答えはひとつまえの答えに2ずつたしていく。

5のだんの九九と同じようにできそう  
1つ分×いくつ分

$2 \times 1 = 2$	
$2 \times 2 = 4$	$2 + 2$
$2 \times 3 = 6$	$2 + 2 + 2$
$2 \times 4 = 8$	$2 + 2 + 2 + 2$
$2 \times 5 = 10$	$2 + 2 + 2 + 2 + 2$
$2 \times 6 = 12$	$10 + 2$
$2 \times 7 = 14$	$12 + 2$
$2 \times 8 = 16$	$14 + 2$
$2 \times 9 = 18$	$16 + 2$

8 座席表

正面黑板

1 A	4 A	7 C	8 B	11 A	14 B
筆算の手順を筋道立てて説明できるようにする。簡潔にホワイトボードにまとめさせる。	筆算の手順を筋道立てて説明できるようにする。簡潔にホワイトボードにまとめさせる。	筆算ができれば説明できるように、被乗数を位ごとに分けさせる。そのための位の表を用意する。		複数の考えをノートに書かせ、その中で一番いい方法を考えさせる。	
2 B	5 B		9 C	12 B	15 A
			5の段の九九で行った累加のカードを用意し、同じ累加の方法で考えさせる。		複数の考えをノートに書かせ、その中で一番いい方法を考えさせる。
3 A	6 B		10 B	13 A	16 B
筆算の手順を筋道立てて説明できるようにする。簡潔にホワイトボードにまとめさせる。				複数の考えをノートに書かせ、その中で一番いい方法を考えさせる。	

2年生黒板